2023 年通期決算・中期経営計画説明会における主な質疑応答

(2024 年 2 月 6 日 (火)、東京)

- Q 1. 複合材事業の競争環境が激化しているとのことだが、どのような状況か。また、どのように収益性を回復させるのか教えてほしい。
- A 1. 中国ガラスファイバメーカーが、世界的な不況の中でも生産を減らさず、製品を安値で世界中に供給しています。当社はこれまで価格を維持してきましたが、需要の回復は早く 2024 年後半になると見込んでおり、若干の値下げをしなければシェアを確保できないと考えています。収益を確保するため、全電気溶融技術をはじめとした生産性改善プロジェクトを進めています。需要動向や設備稼働状況を勘案して、稼働時期を検討しています。
- Q 2. 2024 年度の営業利益は上期より下期の方が大きいですが、どのように理解すればよいか。
- A 2. 需要環境は昨年より良くなっています。ディスプレイ事業が今年に入ってから需要回復の足音が大きくなっています。テレビ、IT、スマートフォン等の在庫が減少し、モノの動きが活発になっています。複合材事業は需要回復にはまだ時間がかかりそうですが、2023 年度よりは良くなりそうです。上期はディスプレイ事業での新設備の立ち上げコスト、複合材事業での修繕コストの発生を見込んでいるため、営業利益は下期が大きくなります。
- Q 3. 中期経営計画「EGP2028」では電子デバイス事業の売上が急拡大するとのことだが、どのような製品が伸びるのか教えてほしい。
- A 3. 半導体用サポートガラスは半導体の製造プロセスでキャリアガラスとして使われています。ガラスの平坦性、熱膨張係数の設計のしやすさ、プロセス後の剥離のしやすさから引き合いが強く、投資を進めています。2026 年には年間 100 億円規模の売上高を見込んでいます。
- ガラスコア基板は以前から複数の企業が研究開発をしており、当社でも開発を強化しています。当社としてはガラス基板だけでなく、貫通電極用の穴あけ加工も含めた開発をしています。将来的には年間 100 億円を超える売上が期待できる製品です。
- Q 4. 「EGP2028」での営業利益目標 500 億円はどのように達成するのか、中間地点の 2026 年でどの程度実現できそうか教えてほしい。
- A 4. プロセス改善として全電気溶融技術の水平展開等の取り組みを進めています。全体の 7~8 割を全電気溶融炉に切り替える計画です。2026 年までに 5 割強の溶融炉に導入する計画です。既存事業は、2023 年度は出荷の減少にあわせて稼働率を下げました。2025 年には出荷が回復して、100 億円程度の増益ができます。既存事業の新製品は 2025 年以降に利益に寄与するものと見ています。
- Q 5. 全電気溶融の展開による増益は、コストの改善によるものか、売価の上昇によるものか、教えてほしい。
- A 5. 全電気溶融は従来の方法に比べてエネルギー効率が良くなるので、製造コストが下がります。ガス燃焼による CO₂ 排出がなくなることで環境にも優しいガラス溶融技術です。売価の上昇による増益は先ほどの説明には織り込んでいません。

Q 6. 自己株式の取得枠を「500 億円」から「1,000 億円」に、配当の目標を DOE「2%以上」から「3%」に引き上げたのは、こういった背景か？

A 6. 中期経営計画「EGP2028」から ROE8%の達成を掲げています。本計画の策定にあたっては、先ず当社の自己資本コストについて共通認識を持つところから始め、将来の利益計画及び投資等を踏まえた見込みキャッシュフローを勘案して最適な資本構成について議論を重ねてきました。その結果、資本の効率性と財務の安定性の観点から、本計画の進捗に合わせて株主還元を充実させることにしました。

Q 7. すでに 2023 年 11 月～2024 年 2 月までに 200 億円の自己株式取得が完了しているが、残り 800 億円の実施予定時期と、取得した自己株式は消却するのか教えてほしい。

A 7. 800 億円の自己株式の取得がいつからということはありませんが、資金計画等も考慮し、順次、実施していきます。また自己株式の消却については、現時点では方針は定めていません。自己株式は、M&A やインセンティブプラン等にも活用できますので、今後適切に判断をしたいと考えています。

Q 8. 2024 年 12 月期の配当予想によれば、DOE3%は届かないと思うが、必達目標ではないということか？

A 8. 2024 年度の DOE は 2.5%程度だと推定します。DOE3%の目標については、2028 年度までに達成していきたいと考えています。

Q9. 「EGP2028」達成への自信や株価への意識について聞きたい。

A9. 私が社長に就いてから、「利益を意識した経営」を強く打ち出し、従業員にも認識してもらっています。既存事業を強くすることが大事ですが、投資判断にあたっては事業収益性の点でも厳しく判断をしていきます。株価はまずは PBR1 倍を達成できる水準を目指したいと以前から思っています。株価を上げるためにも、「EGP2028」を着実に取り組んでいきます。

※このメモは、投資家の皆様へのご参考として掲載するものです。

※このメモは、説明会における質疑応答の一字一句を全て書き起こしたものでなく、弊社の判断で簡潔にまとめさせていただいておりますので、ご了承ください。

※このメモには、将来の弊社の業績や弊社を取り巻く業界の環境に対する予想が掲載されています。これらは弊社グループが開示時点で入手可能な情報に基づく判断によるものであり、リスクや不確実性を含んでいます。また、このメモの内容の完全性・正確性を会社として保証するものではありません。